

ワーキングペーパー

大学教育の質的向上

国際高等教育研究ワークショップ報告書



東洋大学 IR室・国際部共催

2019年1月23日

まえがき

2019年1月23日、東洋大学IR室と国際部の共催のもと、また東洋大学・井上円了記念研究助成金[研究代表者：劉文君、学内外研究協力者：金子元久（筑波大学特命教授・東京大学名誉教授）、高橋清隆（東洋大学国際部長）]による研究の一環として、「国際高等教育研究ワークショップ—大学教育の質的向上」を東洋大学白山キャンパスにて開催しました。

本学の国際的な研究を活性化し、研究成果の国外への発信を推進するとともに、海外の協定校をはじめ、より多くの大学との連携を強化することを目的として本ワークショップを企画しました。本学IR室の活動として実施した学生調査の結果と、共同研究先の大学の学生調査結果に基づき、学生の学修意識・学修時間・教員の教育形態などについて比較を行い、高等教育の質向上について幅広い議論を行いました。

ワークショップは、東洋大学の高橋一男副学長の開会挨拶で始まり、続いて、1.「学生調査から見る中国名門大学の人材育成戦略—上海外国语大学を事例として」（竇心浩 上海外國語大学副教務処長、准教授）、2.「教育改善における学生アンケートの活用」（魏上凌 台湾実践大学IR室長、准教授）、3.「学生調査から読み取れること」（宋彩萍 上海对外貿易大学高等教育研究所長、教授）、4.「留学生と日本人学生の意識の差異—新入生アンケートの分析から」（劉文君 東洋大学IR室教授）の五つの講演が行われた。また、三重大学大学地域人材教育開発機構教学 IR・教育評価開発部門長の黄文哲講師は「大学生の学修行動と満足度-学生調査の現状と課題」の研究を報告し、参加者と交流を行った。

筑波大学の金子元久教授は「大学教育改革の現段階」を題にして、全般の議論を踏まえ、大学教育質的保証および大学間の交流におけるIRの果たす役割が重要性と課題を指摘しました。

本ワーキングペーパーが、このワークショップの内容をとりまとめたものである。読者のご参考になれば幸いである。

2019年2月吉日

東洋大学IR室教授 刘文君

目 次

まえがき

1. 「学生調査から見る中国名門大学の人材育成戦略－上海外国语大学を事例として」 4
竇心浩 上海外国语大学 副教務処長、准教授
2. 「教育改善における学生アンケートの活用」 9
魏上凌 台湾実践大学 IR 室長、准教授
3. 「学生調査から読み取れること」 19
宋彩萍 上海对外貿易大学 高等教育研究所長、教授
4. 「大学生の学修行動と満足度－学生調査の現状と課題」 24
黄文哲 三重大学大学地域人材教育開発機構 教学 IR・教育評価開発部門長、講師
5. 「留学生と日本人学生の意識の差異－新入生アンケートの分析から」 28
劉文君 東洋大学 IR 室 教授
6. 「総括－大学教育改革の現段階」 33
金子元久 筑波大学特命教授、東京大学名誉教授

学生調査から見る中国名門大学の 人材育成戦略

－上海外国语大学を事例として－

上海外国语大学日本文化経済学院
實心浩



1. 「双一流」建設プロジェクト

- 「双一流」建設プロジェクトとは
- 世界一流大学・一流学科構築、略称「双一流」

政策過程：

- 「世界一流大学・一流学科構築の実施に関するグランドデザイン」（国务院、2015年10月24日）
- 「世界一流大学・一流学科構築実施方法推進計画（暫定）」（教育部、財政部、国家発展改革委員会、2017年1月24日）
- 「世界一流大学・一流学科構築大学・構築学科リストに関する通知」（教育部、財政部、国家発展改革委員会、2017年9月20日）

政策目標：

- 21世紀中葉に中国を高等教育強国まで築き上げる

主な内容

- 「双一流」建設プロジェクト
- 上海外大の人材育成戦略
- 上海外大で実施された学生調査
- 学生調査で分かったこと
- 上海外大の学部教育の課題

・主な政策内容：

- ハイレベルの教授陣を構築すること
 - 卓越で創造力豊かな学生を育成すること
 - 研究水準を高めること
- ・従来の大学重点化政策との異同
- 大学のみならず、学科も政策対象とされる
 - 流動的で、評価により、入れ替えが行われる
 - 「双一流」大学の内訳
 - 一流大学構築大学42校
 - Aタイプ36校、Bタイプ6校
 - 一流学部構築大学95校

- 上海外大の概況
 - 教育部所管重点大学、一流学科構築大学
 - 「外国语文学学科」が国内のトップ3で、「双一流」建設プロジェクトに選ばれている
 - 学科構成
 - 文学、教育学、経済学、経営学、法学という五つの分野からなる複合大学
 - 外国語関連29専攻、その他15専攻
 - 学生と教員の数(2017年現在)
 - 学生数：学部生5977人、修士課程院生2749人、博士課程院生442人
 - 専任教員数：計794人、その中、准教授249人、教授121人

3. 上海外大で実施された学生調査

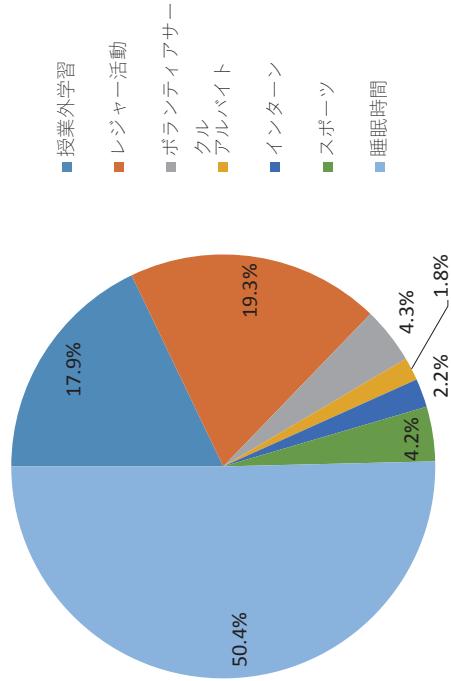
- 上海外国語大学学部生成長調査（Mycos社、2015～2016年）
- 上海外国語大学の学習支援活動に関する学生調査（寶心浩、2015年10月）
- 全国大学教育の質と学生の成長に関する調査（北京大学教育学院、2017年6月）
- 上海外国語大学教養教育の実態に関する調査（陸一、2017年12月）
- 上海外国語大学学部生学習状況に関する調査（徐國興、2018年5月）

- 人材育成目標
 - 人文精神、グローバル視野、創造精神と実行力を「持ち、外し、国情を熟知した上で、専門知識を身につけた「多言語化人材」」
 - 具体的な取り組み
 - 単位制度の改革
 - 選択科目の範囲を拡大し、履修制度の柔軟性を増やす
 - 卓越学院の設置
 - 優秀な学生を選出し、特別な科目セットを提供する
 - 教養教育の強化
 - 教養教育の科目を増やし、学問分野別で充実化する

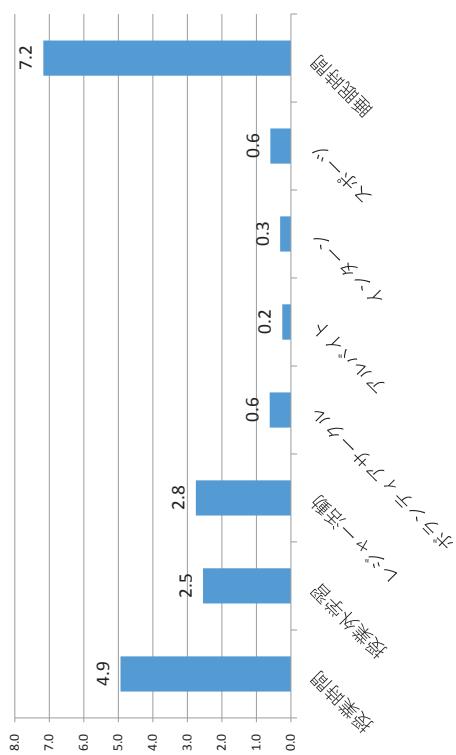
	Mycos社調査	寶調査	北京大調査	陸調査	徐調査
規模	3534人	830人	530人	780人	約2500人
範囲	全学四年	二学部四年	全学四年	教養科目を受ける三年	全学四年
目的	大学における学生の成長過程を調べ、大学の教育活動を評価する	学生の出身、キャンパスライフと将来的の計画を明らかにする	学習支援の実態と学生の利用状況を調べる	教養科目的授業の質を測る	異なるタイプの学生の学習行為を追う
性格	教務課委託	個人研究	全国調査	教務課委託	個人研究

4. 学生調査で分かったこと

授業外時間の過ごし方(週)



毎日の過ごし方(時間)



学生の自主的学習活動

項目	有効%					
	No	…	…	…	…	Yes
図書館などを利用して勉強する	3.98	4.2	14.3	21.9	20.8	17.2
授業内容をよく友達と議論する	3.90	2.1	15.5	21.7	29.1	14.3
授業後よく先生と議論する	3.46	7.7	23.0	24.5	18.9	12.3
全休	24.7	17.8	19.3	2.2	50.2	10.2

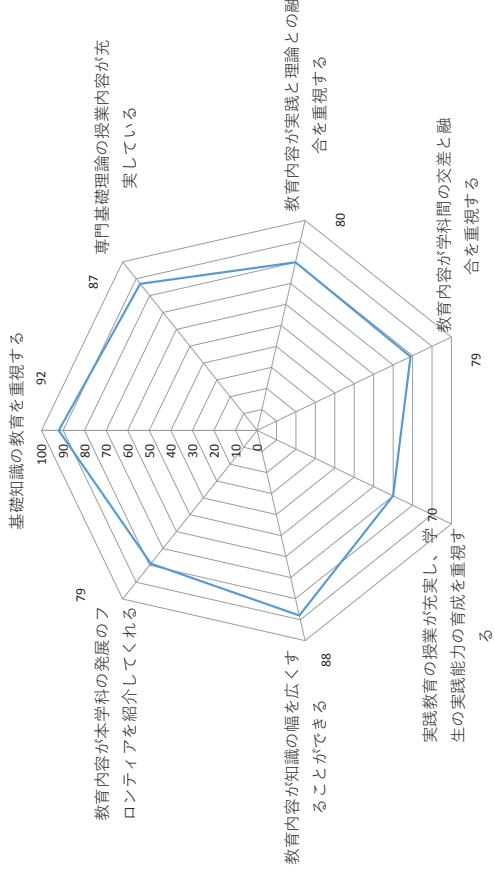
学年別学生の過ごし方(時間/週)

学年	授業時間	授業外学習	レジャー活動	インターネット	睡眠時間	その他
1	23.8	18.0	10.4	.4	50.0	12.3
2	30.5	19.5	18.4	.2	49.4	9.1
3	22.8	15.3	18.3	2.9	51.3	10.9
4	7.6	16.1	25.3	14.4	52.0	6.8
全体	24.7	17.8	19.3	2.2	50.2	10.2

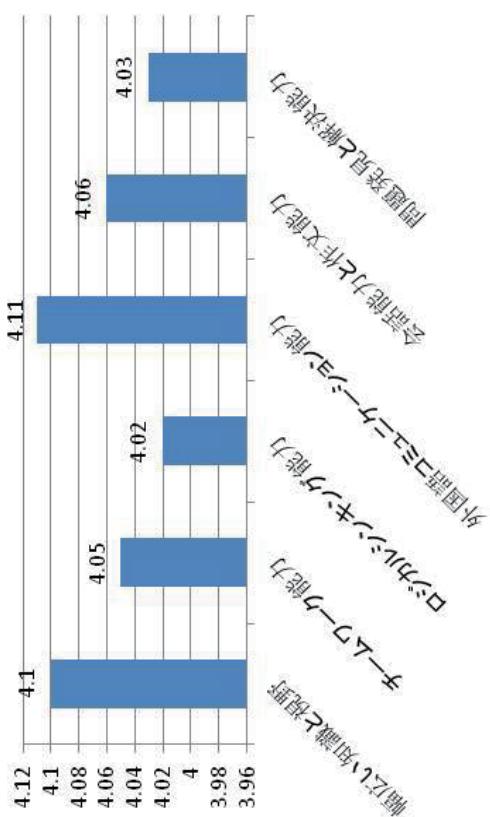
教育内容全体に対する評価

大学教育への評価

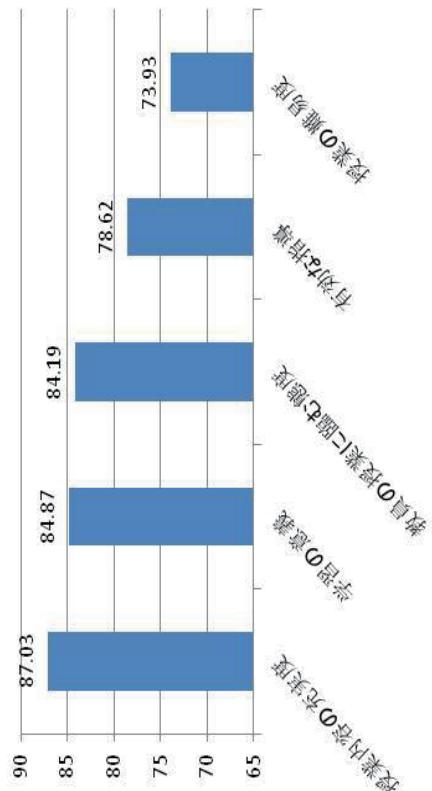
項目	平均			不満足			満足			有効%		
	4.58	4.0	4.2	11.9	23.2	23.0	33.8	27.7	20.0	15.7	27.2	44.2
専任教員	5.02	1.5	2.3	4.7	20.0	27.7	43.8					
指導員	4.93	2.6	4.5	5.8	15.7	27.2	44.2					
教育の質（学部）	4.86	1.5	2.5	7.9	19.6	34.0	34.5					
教育の質（大学全体）	4.81	0.9	2.1	8.7	24.0	32.1	32.3					



汎用能力の向上



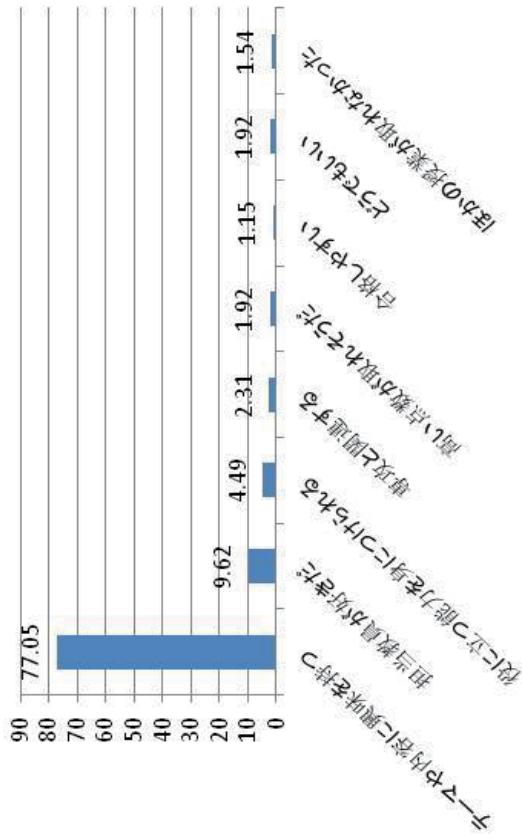
教養科目への授業評価



5. 上海外大の学部教育の課題

- 学生の授業外学習時間が不十分で、大学教育の質的向上にはマイナス的である。
- 今まで通り個人的な学習活動が多く、集団的学習が少ない。特に、教員との交流が不足している。
- 大学の施設設備やカリキュラムにおいて、改善する余地が残っている。
- 授業内容において、基礎知識や幅広い知識が多くて、学際的な知識、新しい知識や実践能力、汎用能力に関連するものが少ない。
- 教養科目の授業内容が比較的簡単で、学生への指導も足りない。また、学生が趣味本位で授業を選び、自らの能力育成との関連を考えていない。

教養科目の授業を選ぶ動機(%)



実践大学紹介

- 創立年度：1957年
- キャンパス：台北キャンパス、高雄キャンパス
- 学部構成：民生学部、デザイン学部、マネジメント学部、文化・創造学部、ビジネス・情報学部の5学部。



2

前書き

学生アンケート

調査

学生基本情報調査

学生学習経験調査

卒業生進路調査

・調査対象：全学新入生

・調査対象：成績落ちこぼれる者

・調査対象：全卒業生

卒業生



アウトライン

前書き

学生基本情報調査（原語：學生基本資料調查）

学生学習経験調査

結論

2

- 9 -



学生アンケート調査分析結果 の活用

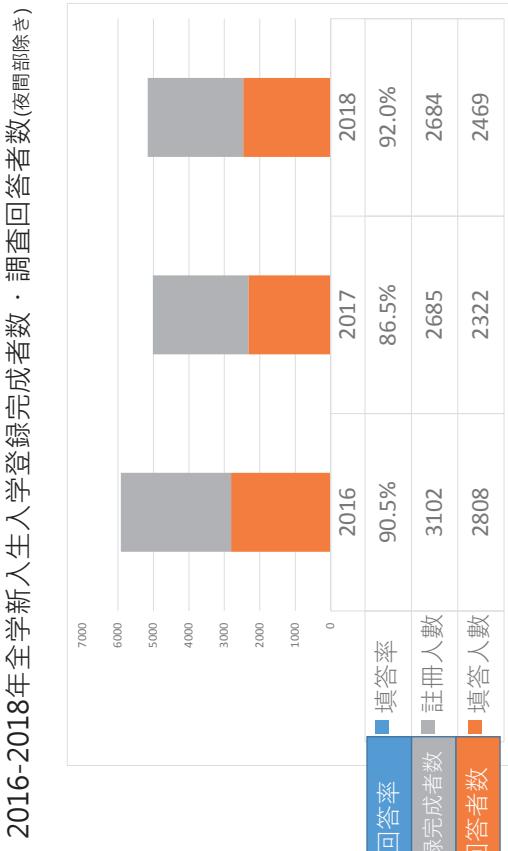


Shang-Ling Wei, Ph.D.
Office of Institutional Research

4

一、新入生情報分析報告書

1. 新入生特徴の輪郭分析



5

1.1 保護者(両親)の学歴

教育程度 國小(含以下)	2016				2017				2018			
	父親	母親	父親	母親	父親	母親	父親	母親	父親	母親	父親	母親
國中	10.7	8.6	9.6	7.5	9.6	7.5	9.6	7.7				
高中(職)	34.4	41.0	35.8	43.7	36.2	40.7						
專科	21.2	22.1	21.2	22.4	20.4	22.2						
大學	21.8	20.6	20.4	19.4	21.5	20.7						
碩士	7.6	4.7	9.4	4.4	8.7	5.7						
博士	1.6	0.5	1.2	0.4	1.3	0.4						

保護者の学歴上位順は「高卒」、「専科学校（5年制）卒」、「大卒」

注：
1.台湾出身者を除いた集計。
2.集計単位：人數。

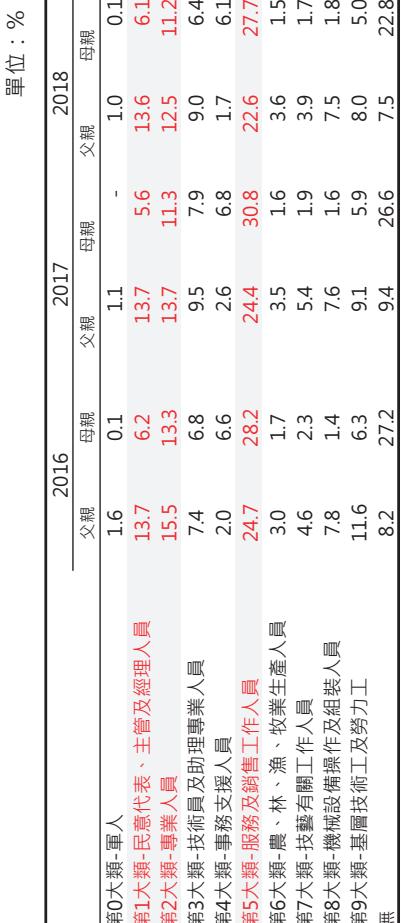
1.1 海外学生出身

国籍	2016				2017				2018			
	父親	母親	父親	母親	父親	母親	父親	母親	父親	母親	父親	母親
中國大陸	65	86	33	48	36	54						
香港	36	2	16	14	25	20						
馬來西亞	23	21	13	18	18	18						
澳門	20	20	17	17	8	8						
日本	9	8	12	10	15	17						
印尼	3	4	5	13	6	11						
英國	1	30	-	-	1	-						
越南	3	8	-	-	5	1						
韓國	3	5	2	2	2	2						
緬甸	1	1	-	-	1	-						
美國	1	1	2	-	1	1						
泰國	-	-	-	-	-	-						
義大利	1	1	1	-	1	1						
史瓦濟蘭	-	-	-	-	-	-						
菲律賓	-	-	-	-	-	-						
法國	-	-	-	-	-	-						
德國	-	-	-	-	-	-						
新加坡	-	-	-	-	-	-						
葡萄牙	-	-	-	-	-	-						
澳大利亞	-	-	-	-	-	-						
以色列	-	-	-	-	-	-						
印度	-	-	-	-	-	-						
南非	-	-	-	-	-	-			-	-	-	1

1.1 保育園・幼稚園の就学実績

1.1 保護者(両親)の学歴

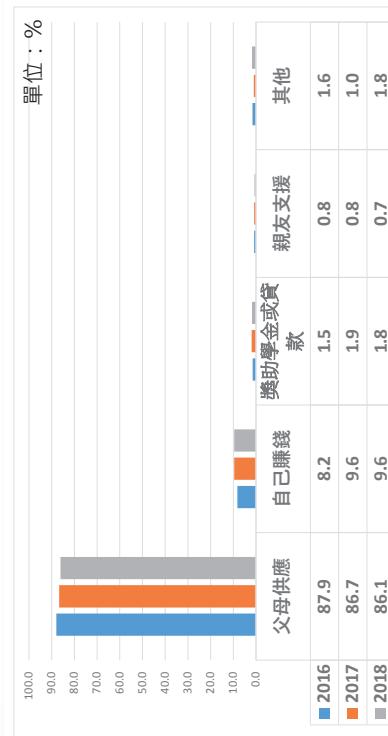
/ 1.2 保護者(両親)の職業別集計



保護者（両親）の職業別上位順は「第5大類のサービス業・セールス業」、「第2大類の高度専門職」、「第1大類の議員、上級管理職」。

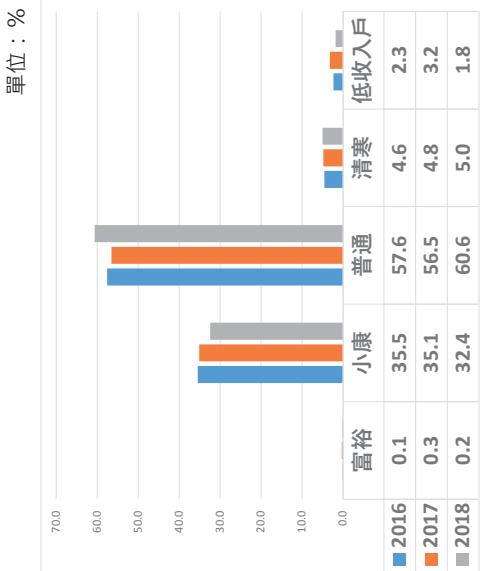
- 11 -

/ 1.4 学生活費の収入源



生活費収入源は、保護者（両親）からの仕送りは最も多いが、年々減少。その後にアルバイトだが、年々増加という傾向が見られる。特に担当教授が学生に注意を。

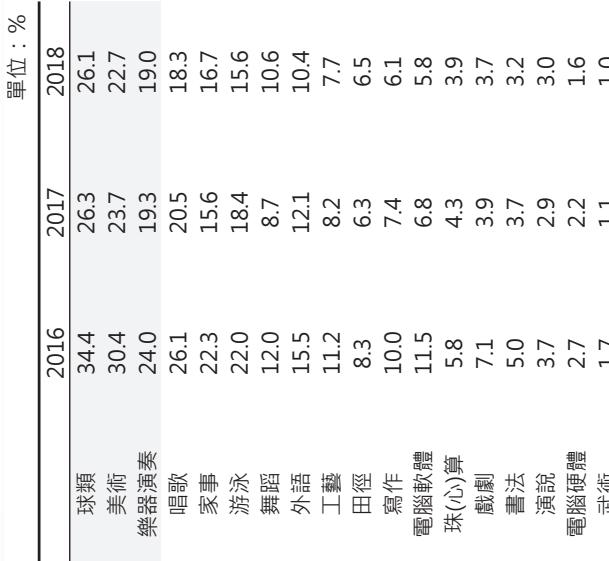
/ 1.3 家計収入



家計収人の5段階集計結果は「普通」を逓んだ割合は最も多い。次には「小康（ある程度裕福）」だが、年々減少。経済支援の考慮も必要。

- 10 -

/ 1.5 学生の特技(授業外活動)



全学新人生の特技上位順は「各球技」、「美術」そして「楽器演奏」。

- 11 -

- 12 -

1.6 休暇等の活動休間興趣

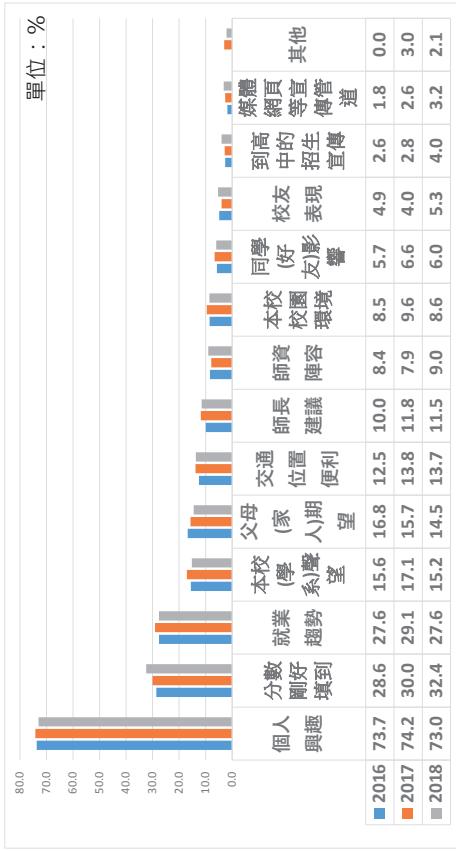
	2016	2017	2018
電視電影	62.1	67.4	67.0
音樂欣賞	31.9	35.7	32.5
旅遊	29.3	30.7	30.1
唱歌	19.8	23.5	23.7
閱讀	20.0	20.7	20.7
球類運動	19.4	21.6	20.5
繪畫	15.9	18.8	19.0
電腦	11.0	13.7	13.0
舞蹈	8.2	7.7	10.6
樂器演奏	9.2	10.5	9.0
社會服務	5.2	4.9	4.7
水上活動	4.6	5.3	4.6
收藏	1.5	2.5	2.0
登山	1.8	2.5	1.7
露營	1.8	1.9	1.7
編織	1.5	1.8	1.4
釣魚	0.6	0.8	0.9
棋藝	0.6	1.2	0.7
武術	0.7	5.3	0.3

上位順は「映画・テレビ鑑賞」、「音楽鑑賞」そして「旅行観光」。

「旅行観光」、「カラオケ（歌う）」、「画く」の割合は年々増加。

13

1.7 本学を選んだ理由（志願動機）-全学



上位順は「個人の意向」、「自分の入学試験得点に合わせただけ」、「業界動向にあわせて選んだ」。その中で「自分の入学試験得点に合わせただけ」と「高校への宣伝効果」、「各メディアでの宣伝効果」の割合は年々上昇。

14

2018年新入生の志願動機 - 学部別

志願動機	民生学部	デザイン学部	マネジメント	文化創造学部	ビジネス/情報学部
個人意向	81.8	96.0	59.6	80.1	63.4
入学試験得点にあわせただけ	29.2	9.7	36.4	30.4	45.5
業界動向にあわせて選んだ	25.5	12.4	36.6	18.2	36.4
本学（学科）の評価	10.5	40.9	6.9	21.1	8.3
家族の期待にあわせただけ	18.2	5.4	19.7	11.9	12.4
交通便利	23.3	6.4	8.8	1.5	2.9
高校教師のお勧め	11.8	9.4	12.7	9.7	
教授陣	8.6	16.1	13.6	6.6	
本学のキャンパス環境	6.7	6.0	5.3	1	8.9
同級生（親友）の影響	3.5	4.7	4.0	16.4	
大学OBOGの活躍	4.0	1.6	0.3		
高校への宣伝効果	1.6				
本学の他の宣伝効果（各メディア・HP等）	1.1	2.7	2.1	4.4	5.2
その他	0.5	1.0	1.1	3.2	4.3

各学部新入生の志願動機が異なる。

注1:未回答単位: %。2:複数回答。

全学上位3位の順は「資格取得」、「海外交換留学」、「海外実習」であり、「実習」の割合は年々減少。

1.8 在学中の学修計画-全学



全学上位3位の順は「資格取得」、「海外交換留学」、「海外実習」であり、「実習」の割合は年々減少。

/ 2018 在学中修計画 - 学部別

キャリア計画	民生学部	デザイン部	マネジメント学部	文化創造学部	ビジネス／情報学部
資格取得	76.1	42.6	71.5	82.9	84.7
海外交換留学	32.7	74.5	48.2	60.1	47.2
海外実習	29.8	62.8	38.8	66.9	55.1
国内企業実習	21.2	3.9	33.7	50.8	60.2
サークル・部活動	27.1	1	26.0	52.0	59.8
アルバイト	28.7	1	24.0	46.9	42.7
副専攻	11.8				
国内外のボランティア活動	17.7				
恋愛	5.4				
ダブル専攻	7.8				
その他	2.1	2.0	0.6	5.3	5.2

注:1.集計単位: %。2.複数回答。

/ 2018年 新入生の卒業後キャリア計画-学部別

卒業後計画	民生学部	デザイン部	マネジメント学部	文化創造学部	ビジネス／情報学部
直接就職	69.4	70.5	77.7	75.0	77.0
海外留学	36.2	81.5	44.9	48.9	34.8
国内の大学院に進学	47.2	50.3	46.3	36.0	47.2
公務員試験	39.9	2.3		15.1	29.4
その他	3.2	2.7			

看板学部のデザイン学部生
は特徴的。

注:1.集計単位: %。2.複数回答。



「直接就職」を選んだ割合は最も多い。その次は「海外留学・就職」、「国内大学院に進学」。「国内大学院に進学」を選んだ割合は年々増加。

/ 新入生職業興味探索診断

- ◆ 台湾教育省主担当のUCANという職業興味診断プラットフォームを利用して、新入生に全員診断を受けさせる。本学は、UCANにおける「適職興味探索診断」、「職場一般共通能力診断」、「教学成果フィードバック」を利用し、「卒業生調査データ」と「カリキュラムマップ」と照らし合わせ、学生のキャリアプラン・各能力の成長のモニタリング、そしてカリキュラムマップの調整に応用している。
- ◆ 本学のUCAN計画の実施計画：学生の回答率は教員評価と連動。

- 大一：適職興味探索診断
- 大二：職場一般共通能力診断（コミュニケーション・表現・問題解決・創造力・職場倫理・責任・IT活用力）
- 大三：職場専門能力診断（16キャリア類型-66就職/ベース（path））
- 大四：適職興味探索診断、職場一般共通能力診断、職場専門能力診断（前後比較用）

/ 1.14新入生適職興味探索診斷 - 文化創造學部

職業興趣	2016	2017	2018
建築營造	50.35	47.71	47.08
天然資源、食品與農業	44.56	41.88	43.48
藝文與影音傳播	59.81	58.06	57.82
企業經營管理	46.23	43.95	44.94
教育與訓練	51.45	49.28	50.89
金融財務	43.94	42.46	43.07
政府公共事務	52.98	52.35	51.62
醫療保健	48.29	43.53	46.22
個人及社會服務	53.91	50.62	51.47
休閒與觀光旅遊	55.96	53.44	53.11
資訊科技	45.64	42.22	42.49
司法、法律與公共安全	53.00	50.74	52.12
行銷與銷售	52.40	51.33	51.68
製造	48.11	44.51	45.91
科學、技術、工程、數學	43.22	41.26	41.47
物流運輸	48.85	46.98	46.56

25

新入生特徵輪郭分析の結論

1. 所屬學科と担任教授が学生の家庭状況を把握すべき：経済的に不利な学生に必要な教学・相談サービスを提供し、安心就学の保障の仕組みを構築。

2. 学生募集・宣伝能力の強化：マーケティング戦略は各学部学生の特徴に合わせて調整。異なる特徴・ニーズのある生徒をひきつけるため、各学科担当者と本部募集チームとの連携が必要。

3. 学生の学修計画及び卒業後キャリア計画を把握すべき：各学部の学修計画及び卒業後キャリア計画は年々変化しているため、各学部・学科は常に学生のニーズを理解し、カリキュラムデザインにも必要な調整をすべき。

/ 1.15新入生適職興味探索診断 - ビジネス・情報学部

職業興趣	2016	2017	2018
建築營造	52.02	49.78	49.10
天然資源、食品與農業	48.04	43.69	46.31
藝文與影音傳播	52.09	50.74	48.33
企業經營管理	55.09	51.27	53.11
教育與訓練	50.85	46.73	48.15
金融財務	56.84	52.94	54.57
政府公共事務	53.32	50.17	50.06
醫療保健	49.30	46.34	47.66
個人及社會服務	51.64	47.92	48.97
休閒與觀光旅遊	51.80	49.49	47.92
資訊科技	51.63	48.81	50.03
司法、法律與公共安全	54.94	49.16	49.59
行銷與銷售	55.13	49.89	51.01
製造	52.56	50.91	50.99
科學、技術、工程、數學	51.04	50.35	51.58
物流運輸	54.03	52.19	52.43

26

二、学生學習經驗調查分析報告書



廈門大學

Xiamen University

校園客座研究室

Office of Institutional Research

106學年度第一學期學生學習經驗調查分析

< 106學年度第二學期學生學習經驗調查分析

校園客座研究室
Office of Institutional Research

107年3月

2017年第一學期学生學習經驗調查分析報告

2017年第二學期学生學習經驗調查分析報告

27

2.1 学生学習経験調査

- | | |
|------|---|
| 目的 | <ul style="list-style-type: none">・学習落ちこぼれる学生の学習経験を把握するため、適切な補習サービスを提供する |
| 対象 | <ul style="list-style-type: none">・学期ごとに「学習成績モニタリングシステム」に不合格単位数が当該学期履修全単位数の1/2を超えた学生を調査対象にする |
| 調査内容 | <ul style="list-style-type: none">・学生の基本属性情報、生活スタイル・学習エンザイエティ（不安）、試験エンザイエティ（不安）、自己調整・自己効力感等 |
| 実施流れ | <ul style="list-style-type: none">・本部教務部教学開発センターより、直接該当学生の担当教員に依頼し、当該学生に回答させてから回答用紙を回収・面談をしてからIR室は調査データを入力・分析 |

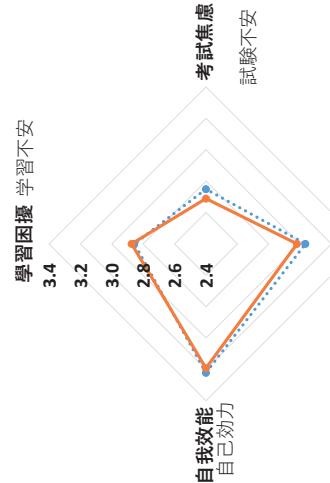
29

2.2 「警告リスト」に入っている学生の特徴

- ・一人の賃貸暮らし：44.2%
 - ・ほぼ毎日夜中2時以降就寝：24.2%
 - ・毎日予習復習などの学習に費やした時間が1時間未満の方：67.4%
 - ・読書習慣のない方：18.6%
 - ・運動やアウトドア活動をする習慣のない方：19.5%
 - ・サークルや部活動に参加していない方：70.5%
 - ・一緒に勉強できる仲間のない方：37.1%
 - ・相談できる親友・同級生のない方：7.9%
- 

28

2.3 カリキュラムと学習経験

- ・虚線：2017年度第1学期
 - ・實線：2017年度第2学期
- 
- | 項目 | 2017年度第1学期 | 2017年度第2学期 |
|------|------------|------------|
| 学習環境 | 3.4 | 3.2 |
| 学習不安 | 2.6 | 2.4 |
| 自己効力 | 2.8 | 2.0 |
| 試験不安 | 3.19 | 3.19 |

2.4 リキュラムと学習経験調査の信頼性と妥当性

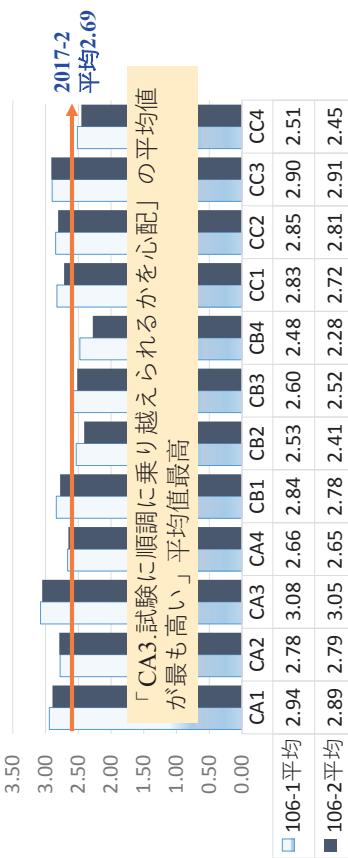
測定側面	質問項目数	内部一貫性	因子負荷	分散の%	累積の%
学習エンザイエンティ	10	.854	.805-.454	27.086	58.388
試験エンザイエンティ	12	.934	.812-.586	21.548	
学習経験	9	.901	.816-.553	5.674	
自己効力	7	.913	.859-.673	4.081	

全体的に信頼性が良く、各質問項目が共同因子との関連性も深い。本調査の信頼性と妥当性がよいと、これによって判断される。

33

2.6 試験不安

「試験不安」という測定側面は主に学生が試験に向けて様々な不安を意味し、12の質問項目から構成されている。

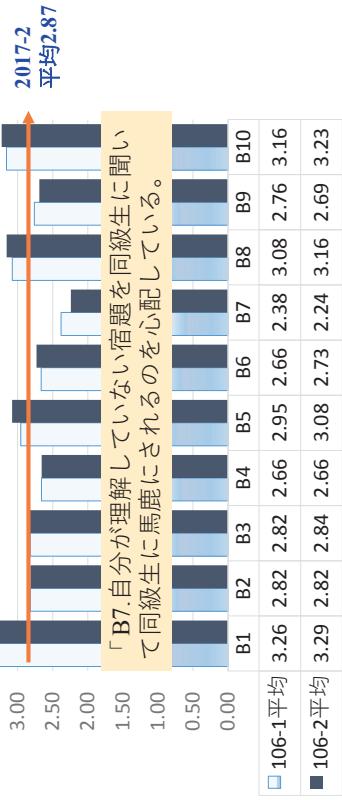


まとめ：多数の学生が試験に向けて様々な不安を感じている

35

2.5 学習不安

「学習不安」という測定側面は主に学生が学習における感じた様々な不安を意味し、10の質問項目から構成されている。



まとめ：多数の学生が成績が落ちこぼれることを自覚しているため、学習不安が強くなり、学習意欲に悪影響を与えていている。

34

2.7 学習経験

「学習経験」主要為瞭解學生的學習情形。共有9題項衡量



まとめ：成績悪くても多数の学生は多少学習方法を検討している。

36

2.8 自己効力

「自己効力」は学生が自分の学習状況にどの程度自信を持っているかを意味し、7質問項目から構成されている。



まとめ：多数の学生が高い自己効力感を持っているが、勉強の要領を得ていない。

37

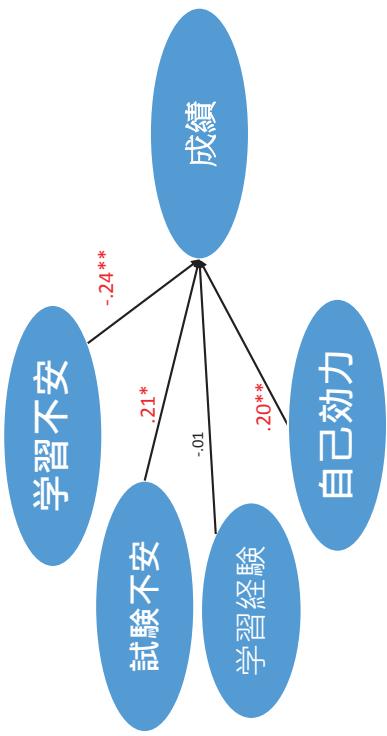
結論

◆警告リストの約34.4%の学生は、「今の所属学科が自分と合わない」と思っている。学校側は学生の興味を把握して上、学生相談や転学科対策などを早急に考案をすべき。。

◆一人賃貸暮らし、アルバイトの時間数や人間関係の把握も注目すべき、特に担任教授に責任がある。

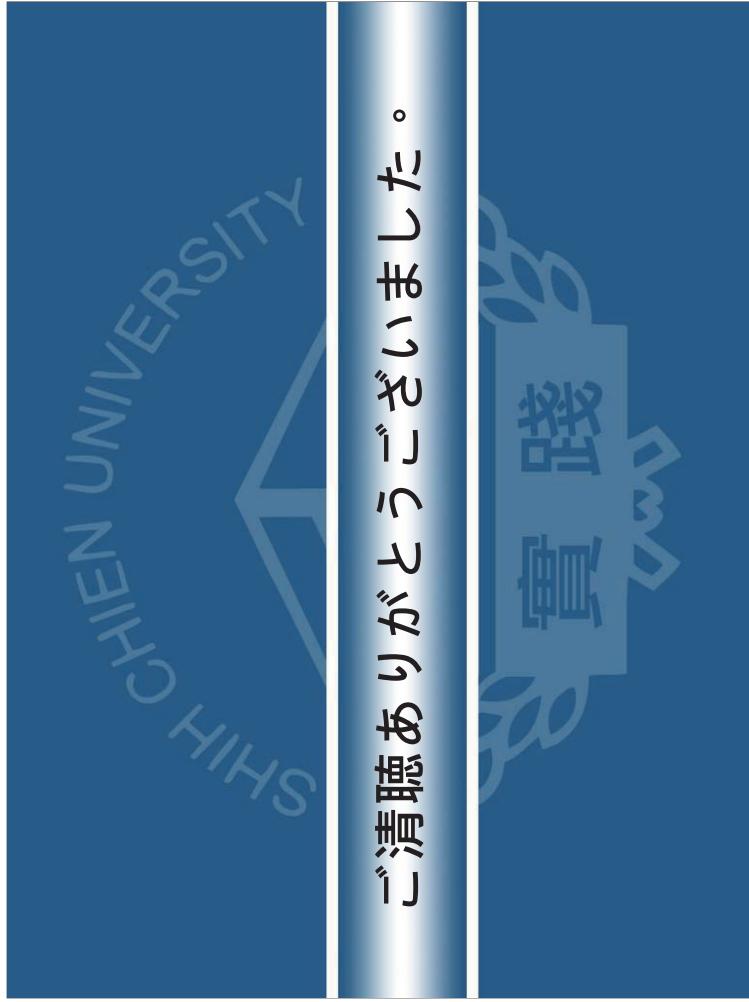
◆一度警告リストに入ったことのある学生に対し、適時・適宜に学習、家庭、個人生活に指導・助言をする必要もある。

2.9 学習経験4側面と学習成績の関係



- ▶ 適度の試験不安と自己効力は成績の向上に効果がある。
▶ 学習不安は成績にマイナスの影響を与えている。

38



学生調査から読み取れること —卒業調査の分析

上海对外貿易大学 高等教育研究所

宋彩萍



内容

- はじめに
調査説明
1. 卒業時調査から読み取れること
2. 卒業後調査から読み取れること
3. 卒業後調査から読み取れること
4. 知見と課題



はじめに

①大学の概要
松江キャンパス（松江区）、古北キャンパス（長寧区）、七宝キャンパス（閔行区）
経済学、管理学、文学、法学、理学、工学の学問分野を有し、国際経済学院、国際商務外語学院、金融管理学院、法学院、工商管理学院、会計学院、コンベンション・旅行学院、ビジネス情報学院、国際交流学院などが設けられ、教職員1000余人、専任教員780名、在校生12,100名（学部生約9,200名、大学院生約2,900名）

経済貿易分野の応用人材の育成を強みとする重点大学。「国際ビジネスエリート人材の摇りかご」と称される。世界貿易機関（WTO）と共同で世界貿易に関する研究討論会を開催するなど、国際貿易体制に關して一定の影響力を有する。

②国際交流
米国、英国、オーストラリア、カナダ、ドイツ、フランス、などの約100の大学・研究機関と交流・協力関係にある。オーストラリア、英国、カナダ、ドイツの大学と協力して共同運営プロジェクトを展開している。
毎年100以上の国から2000以上の留学生を受け入れ、25の外国の大学で交換し、千人以上の学生を海外派遣しています

協定校とのさらなる交流を期待しております

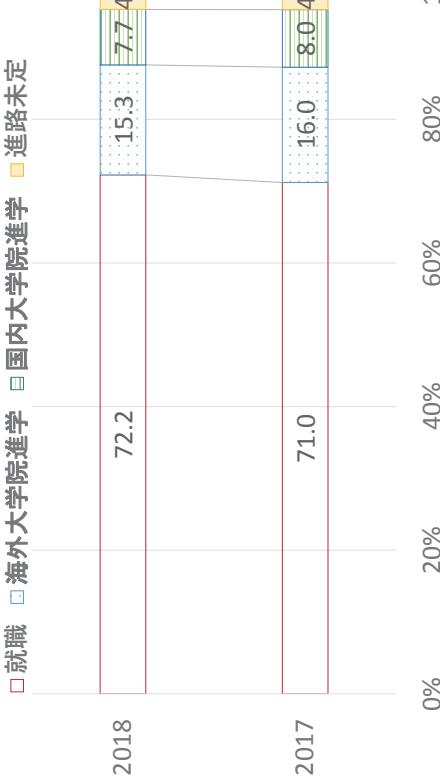


1. 調査説明

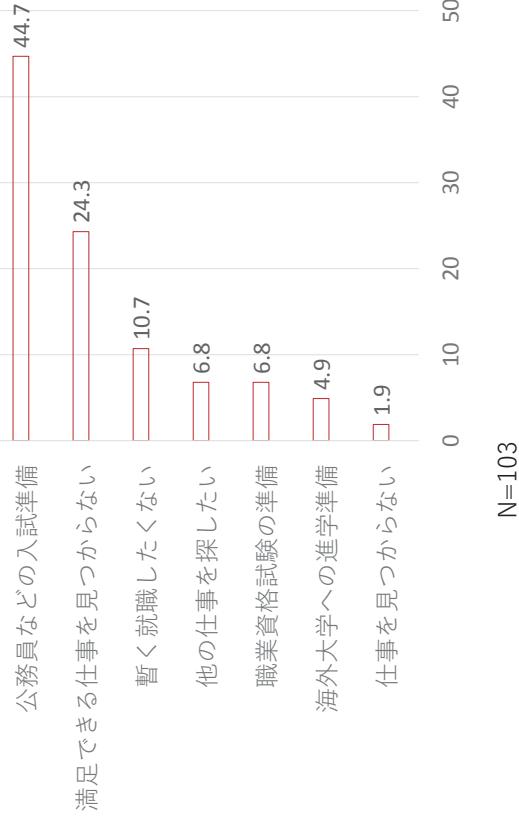
「2018年度卒業生就職状況年度報告」（卒業時、
2018年8月31日まで実施）
2018年度 学部卒業生 2,192名

「2017年度卒業生教育評価報告」（卒業後半年後
実施）
2017年度 学部卒業生（2,152）, 回答者数964,
回答率 44.8%

2.2 進路状況



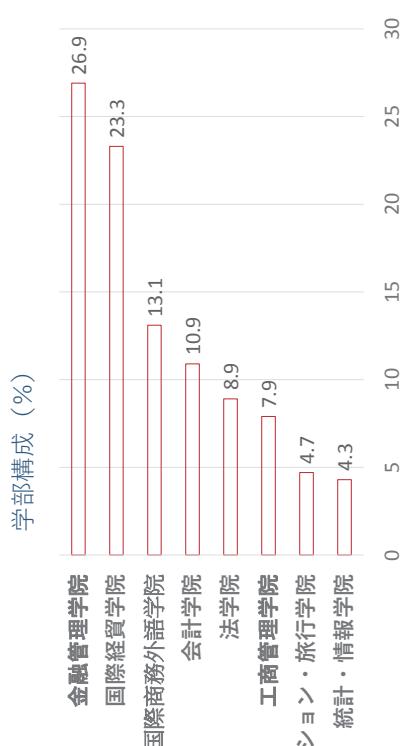
2.3 進路未定の原因



2. 卒業時調査から読み取れること

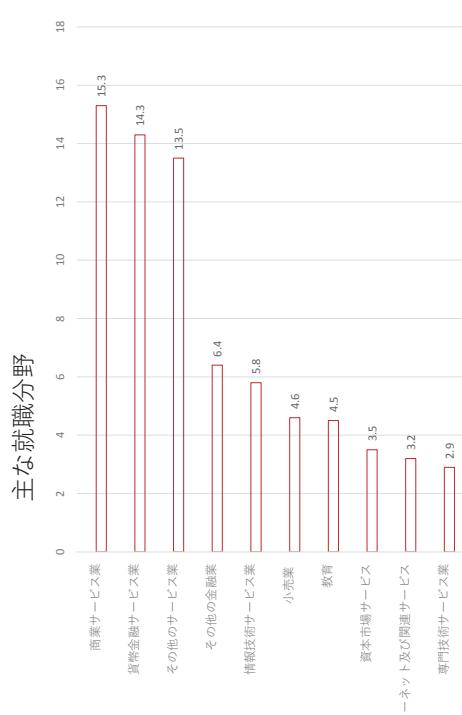
「2018年卒業生就職状況年度報告」

2.1. 卒業生基本状況：
出身地：上海38.3%、安徽省7.3%、河南省6.0%、浙江省6%、江蘇4.3%、男性：27.4%、女性72.6%

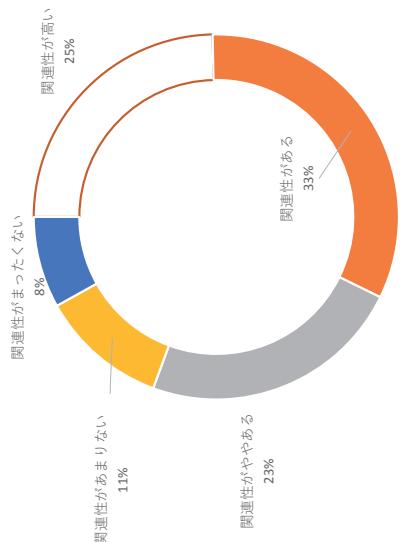


2.4 就職状況

就職率：学部生95.3%
就職地域：上海83.5%、江蘇省3.4%、浙江省2.0%

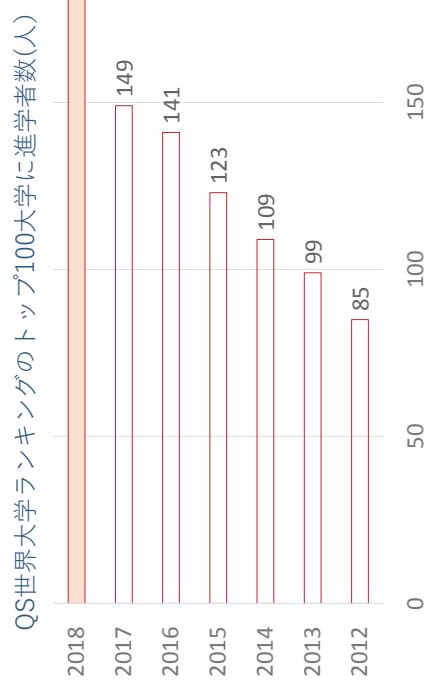


2.5 専門分野と仕事との関連性



2.6 海外トップ大学大学院への進学

2018年、168の卒業生は国内大学進学、335名は海外大学院へ進学、そのうち181人はイエール大学、ロンドン大学など最新版QS世界大学ランキングのトップ100大学に進学（日本：東京大学1人、大阪大学1人）、年々増える傾向。

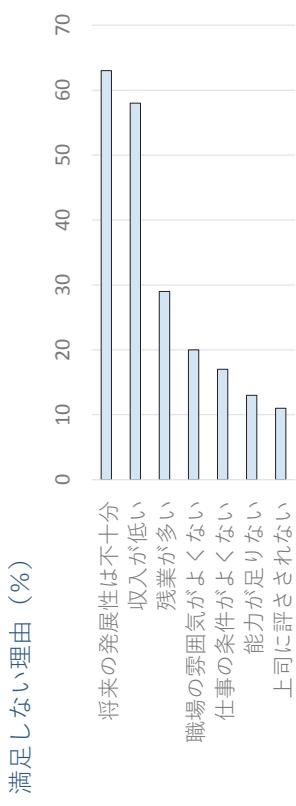
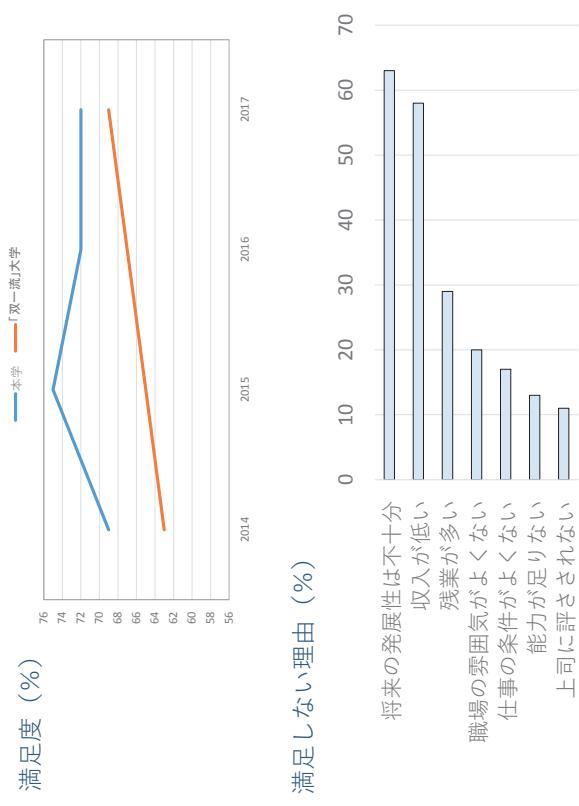


3. 卒業後調査から読み取れること

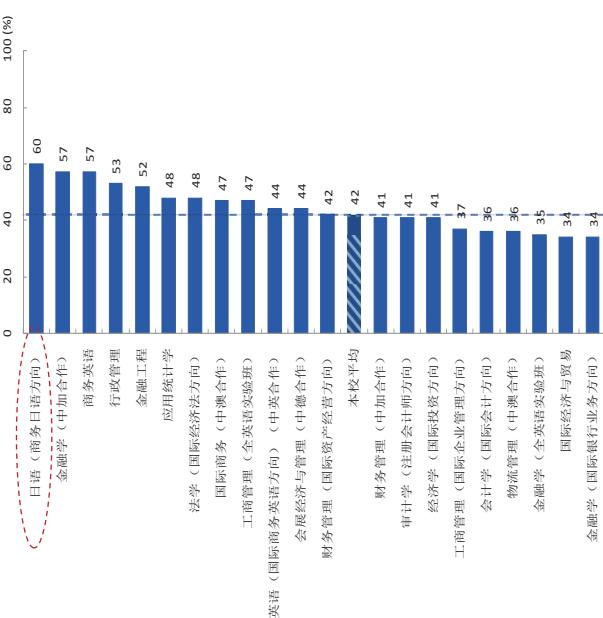
3.1 進路状況



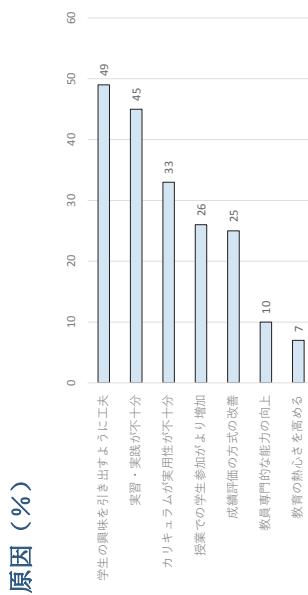
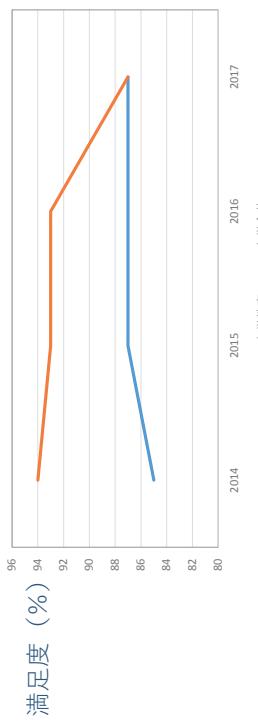
3.2 就職状況満足度



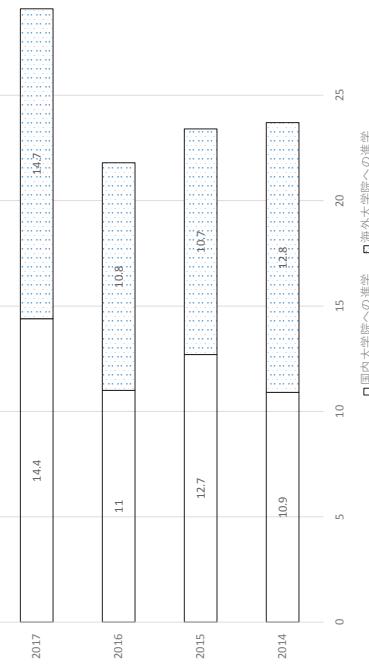
3.4 後輩に自分所属した学科への進学を勧めたい



3.3 大学教育に対する満足度

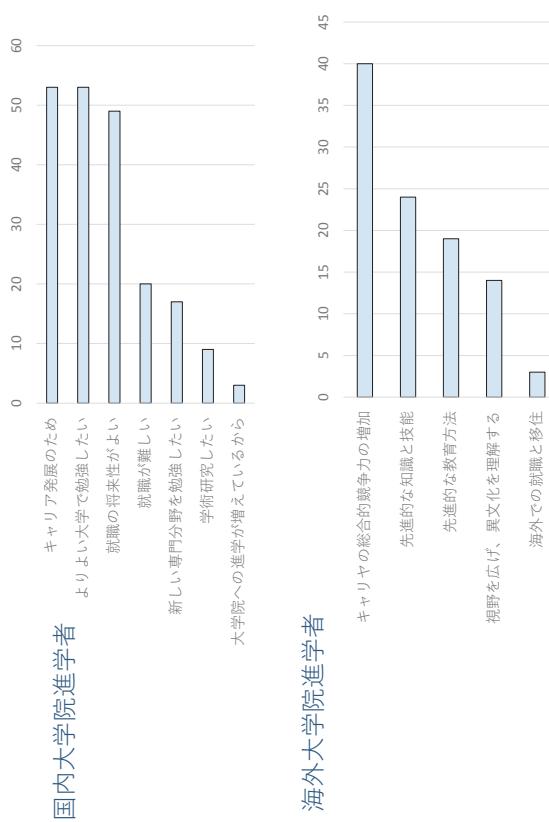


3.4 大学院への進学

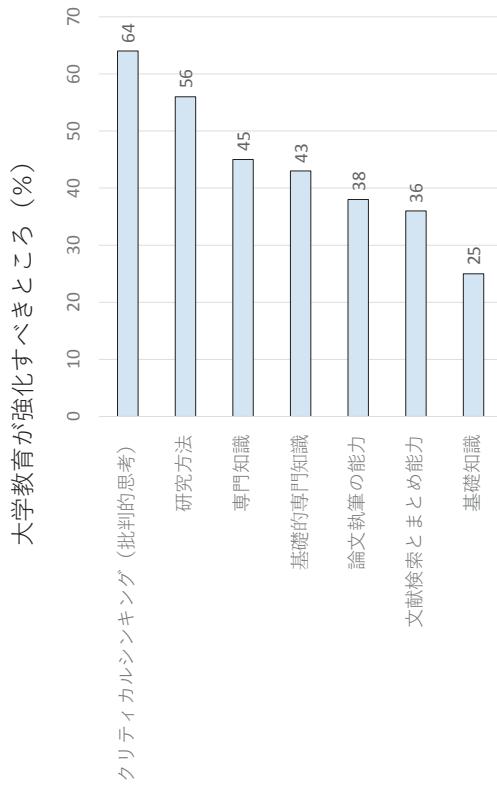


3.5 大学院への進学

3.5 大学院進学の理由



3.6 大学院進学者の大学教育への期待



4. 知見と課題

- 卒業生調査を通じて学生の就職状況、大学教育に対する満足度などを把握でき、また全学、学部別の調査結果を教員、大学執行部などにフィードバックするこどが大学の教育改善に大変重要である。今後継続的な調査を通じて、時系列的比較、国内外の大学（とりわけ協定校）とのベンチマークを行う。
- 現在新入生調査も実施し始めている。
- 在校生を対象にして、学修・生活の状態、教員の教育のありかたなどより詳細な調査が必要である。



ご清聴をありがとうございました

構成

- 三重大学の学生調査
- 学生調査の課題
- 今後のIR計画

大学生の学修行動と満足度 -学生調査の現状と課題

三重大学 地域人材教育開発機構 講師

黄文哲

2019年1月23日



三重大学 地域人材教育開発機構 講師

黄文哲

2019年1月23日



大学概略

学生数及び教員数（平成26年5月1日現在）

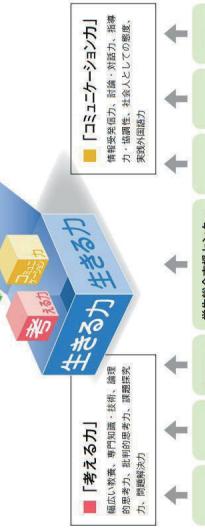
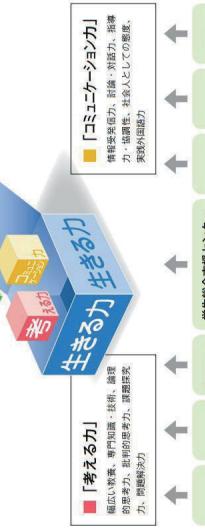
学生数：学部 6,055名（男3,629名 / 女2,426名）、大学院 1,138 名（男847名 / 女291名）
専任教員数：792名（教授225名 / 准教授200名 / 講師83名 / 助教246名）

職員数：1,171名（休職者及び育児休業者を含まず、任期付職員（代替職員）を含む）



教育目標

- ・三重大学は「4つの力」、すなわち「感じる力」「考える力」「コミュニケーション力」と、それらを総合した「生きる力」を躍動させる場として、社会の新しい進歩を促すとともに他者に対する寛容と奉仕の心を併せもつた、性豊かな人材を育成する。



学生調査の種類

調査名	主な調査項目	調査頻度
1.修学達成度調査	「4つの力」の12下位項目の到達度	毎年
2.授業アンケート	授業での学びの到達度/教員の改善項目	毎学期
3.教育満足度調査	教育、学習環境、設備、学生サポート等	毎年
4.卒業生・事業所調査	社会人として必要な力が身についているか等	3年に1回



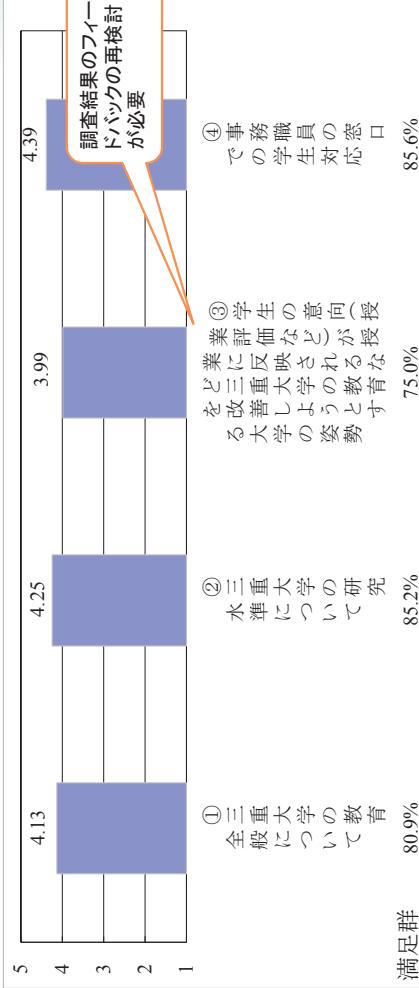
調査結果のフィードバックの仕組み

- ・ 教学IR・教育評価開発部門が学生調査結果の集計分析を行い、授業及びカリキュラム改善の資料として部局に提供

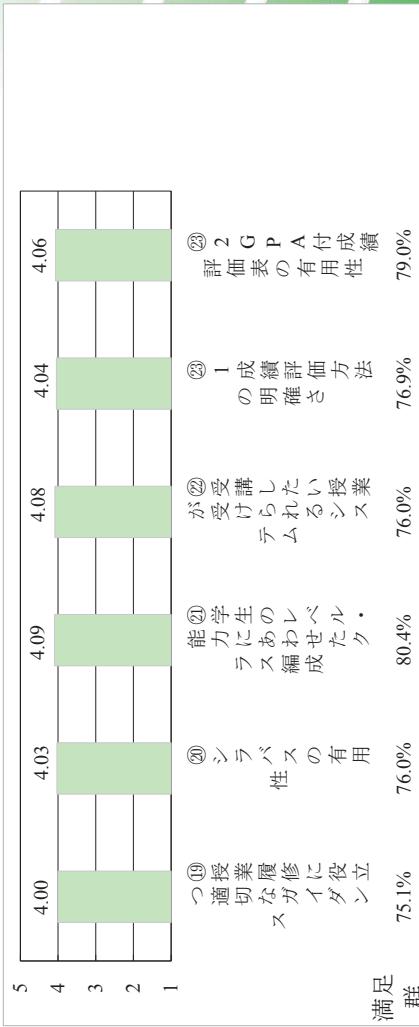
調査名	大学	部局	学生
1.修学達成度調査	教育担当理事から各部局への集計分析を参考にした上、各部局の独自分析・改善策提案の依頼	IR部門の集計分析を参考にした上、各部局の独自分析・改善策の提案	調査システムから回答結果をシステムにて確認
2.授業アンケート	教育担当理事から各部局への集計結果の分析・改善策提案の依頼	IR部門の集計分析を参考にした上、各部局の独自分析・改善策の提案	回答結果をシステムにて確認
3.教育満足度調査	教育担当理事から各部局への集計結果の分析・改善策提案の依頼	IR部門の集計分析を参考にした上、各部局の独自分析・改善策の提案	学内限定のウェブページで部局からの対応策を確認



大学全般についての満足度

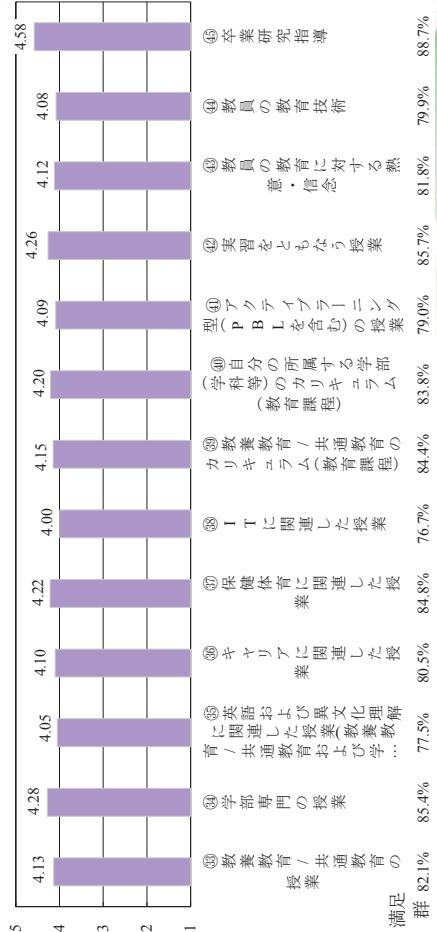


評価・カリキュラムについての満足度



注:5段階尺度で測定

授業についての満足度



前年度との比較-①

カテゴリー	項目	平均値				満足群(%)
		H29	H28	H29-H28	H29	
大学全般	三重大学の教育全般について	4.13	4.28	-0.15	4.18	-0.04
	三重大学の研究水準について	4.25	4.28	-0.03	85.2	80.6
	学生の意向(授業評価など)が授業に反映されると、三重大学の教育を改善しようとする大学の姿勢	3.99	3.99	-0.01	75.0	73.6
	事務職員の窓口での学生対応	4.39	4.33	0.06	85.6	82.6
	授業履修に役立つ適切なガイダンス	4.00	4.03	-0.03	75.1	75.9
	シラバスの有用性	4.03	4.00	0.03	76.0	73.7
	・ 学生のレベル・能力にあわせたクラス編成	4.09	4.09	0.00	80.4	80.2
	受講した授業が受けられるシステム	4.08	4.11	-0.03	76.0	75.9
	成績評価方法の明確さ	4.04	4.04	0.00	76.9	75.7
	GPA付成績評価表の有用性	4.06	4.04	0.02	79.0	78.2



注: 5段階尺度で測定

前年度との比較-②

学生調査の課題

回収率の向上

他大学との比較はない。

如何に有効にフィードバックするのか



※ %は、各項目に回答した学生数を分母とした割合である。

カテゴリー	項目	平均値				満足群(%)
		H29	H28	H29-H28	H29	
授業	教養教育/共通教育の授業	4.13	4.17	-0.03	82.1	82.2
	学部専門の授業	4.28	4.28	0.00	85.4	84.3
	英語および異文化理解に関連した授業(教養教育/共通教育および学部専門の両方を含む)	4.05	4.01	0.04	77.5	75.1
	・ キャリアに開連した授業	4.10	4.08	0.02	80.5	78.4
	保健体育に開連した授業	4.22	4.24	-0.03	84.8	84.1
	ITに開連した授業	4.00	4.02	-0.02	76.7	76.6
	教養教育/共通教育のカリキュラム(教育課程)	4.15	4.14	0.00	84.4	82.9
	・ 自分の所属する学部(学科等)のカリキュラム(教育課程)	4.20	4.21	0.00	83.8	82.5
	アクティブラーニング型(PBLを含む)の授業	4.09	4.09	0.00	79.0	79.3
	実習などをもつた授業	4.26	4.32	-0.06	85.7	87.0
	教員の教育に対する熱意・信念	4.12	4.13	-0.01	81.8	80.3
	教員の教育技術	4.08	4.08	0.00	79.9	77.9
	卒業研究指導	4.58	4.49	0.09	88.7	86.2

学生調査改善の案

学生調査成果の実績ある大学事例を参考に。(東洋大学IR室等他大学の取り組み)

ウェブ調査と紙媒体調査の総検討:回収率の向上か紙資源節約?

IRコンソーシアムの調査に参加?



今後のIR計画

教員意識調査—研究面への支援

ターゲット高校の生徒調査

三重県内事業所の悉皆調査



ご清聴ありがとうございました。

ilovetechchan@hotmail.co.jp

留学生と日本大学生の意識の差異 -「新入生アンケート」の分析から



劉 文君

2019年1月23日

はじめに—調査・データ説明

アンケート調査の概要

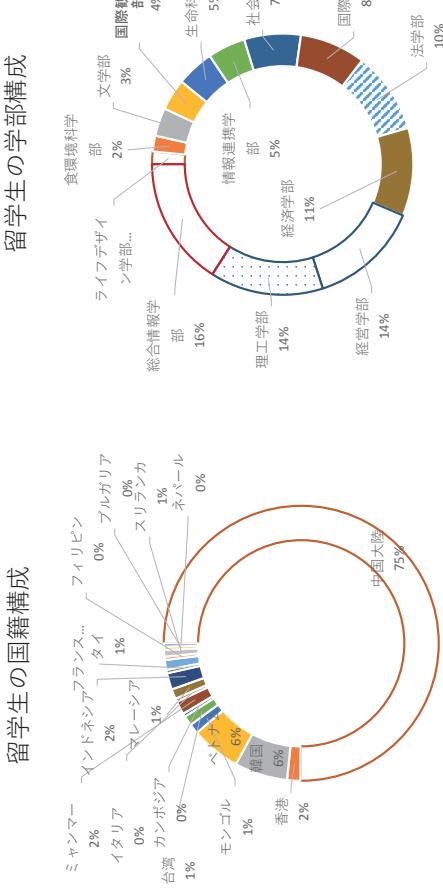
	新入生アンケート	在校生アンケート	卒業時アンケート
対象	1年生	1・2・3年生	4年生
実施時期	毎年度5月	毎年度11月	毎年度卒業式当日
実施方法	ToyoNet-ACE (WEBアンケート)	ToyoNet-ACE (WEBアンケート)	マークシート
趣旨	入学後約1か月が経ち、オリエンテーションや大学の授業を経た新入生を対象として、入学の契機や理由等について、今新入生が、どのような学生生活を送り、何をする実態と成長や経験の有無について調査する目的に定め、大学生活の満足度などについてどのよう感じているかを中心に調査	今後の教育改善等に活用していくことを目的として、大学及び学部・学科、教育課程の分野別の学生生活や、学習支援・キャリア形成に対する有無、また、本学の教育の充実性、または社会人基礎力の各項目に対する有効性などをについて調査	大学生活の満足度などについて調査
平成30年度 実績 (在学生29 年度)	対象総数：7,603人 回答者数：4,588人 回答率：60.3%	対象総数：22,487人 回答者数：7,397人 回答率：32.8%	対象総数：6,412人 回答者数：5,962人 回答率：92.3%

内容構成

- はじめに—調査・データ説明
 - 1. 大学の志望理由、志望順位
 - 2. 高校三年次の勉強時間と志望順位
 - 3. 大学教育に対する期待
 - 4. 将来の進路と不安
- まとめ

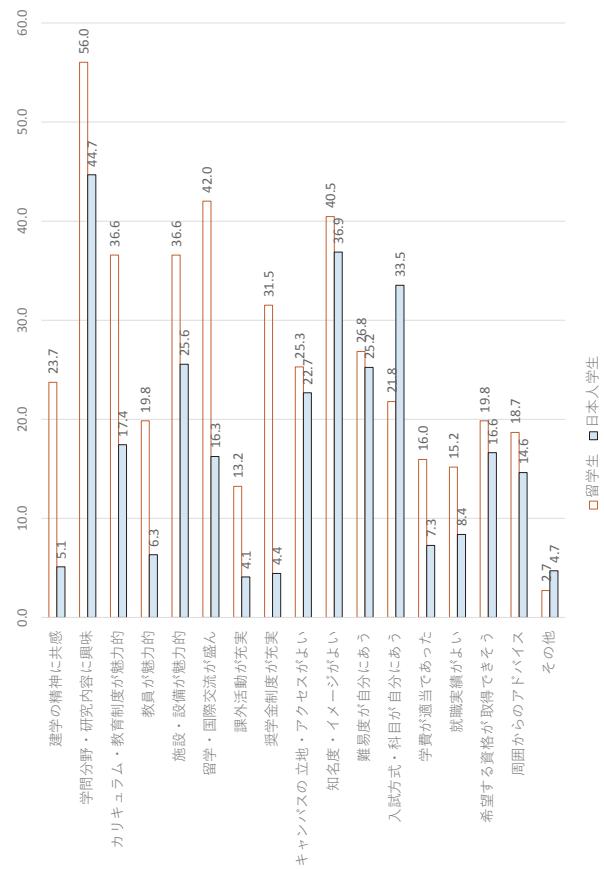
回答者国籍・学部の構成

日本人学生アンケート回答者の国籍構成
日本人学生4,331 (94%)、留学生257 (6%)

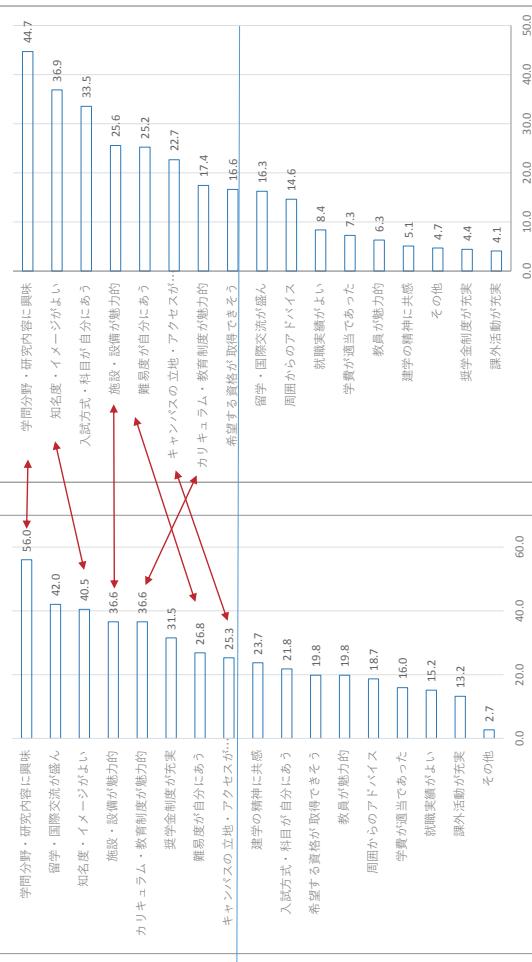


1.大学の志望理由、志望順位

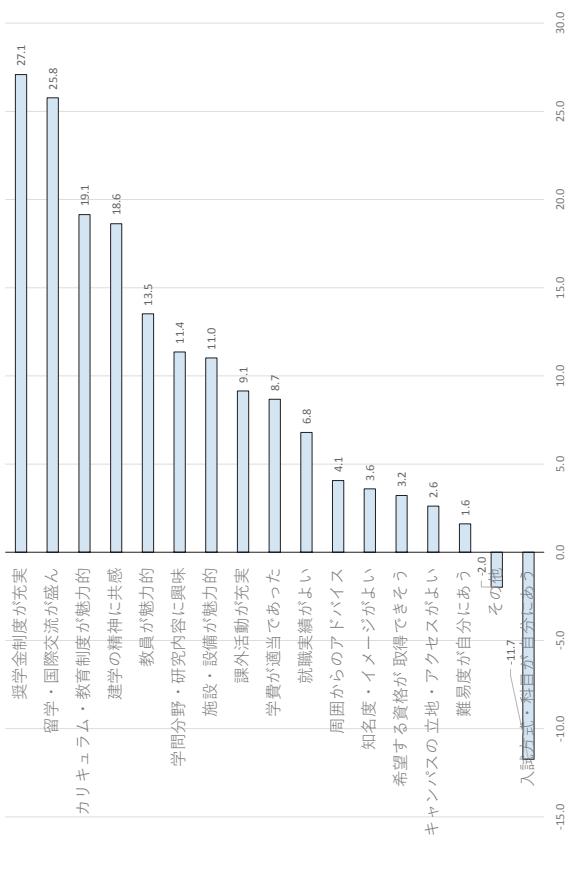
大学の志望理由の差異



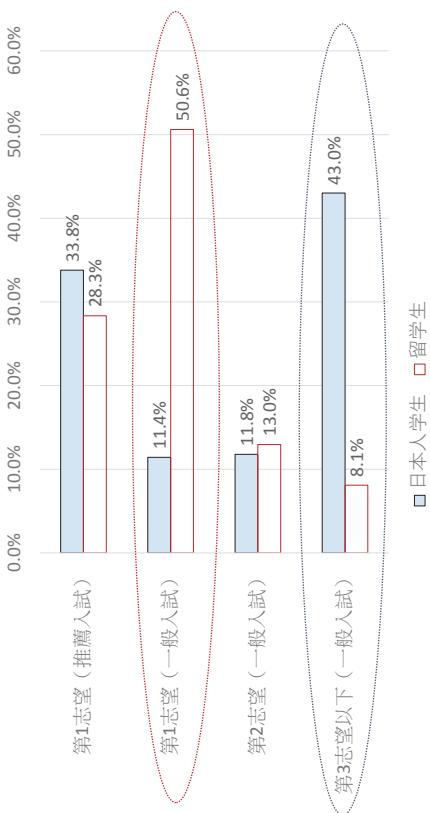
大学の志望理由の共通点
留学生



差 (留学生ー日本人学生) (%)

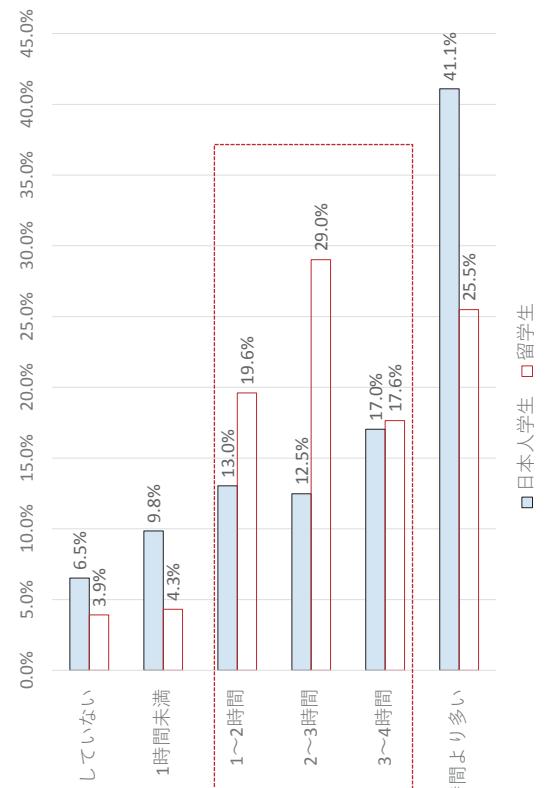


志望順位

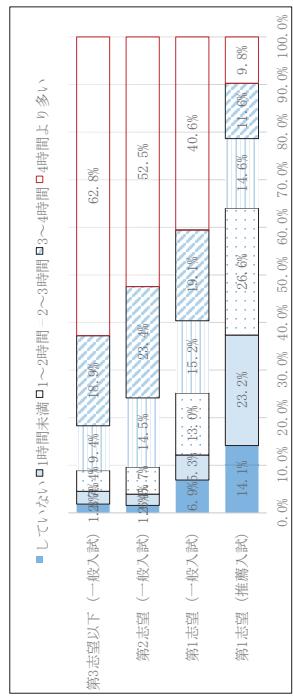
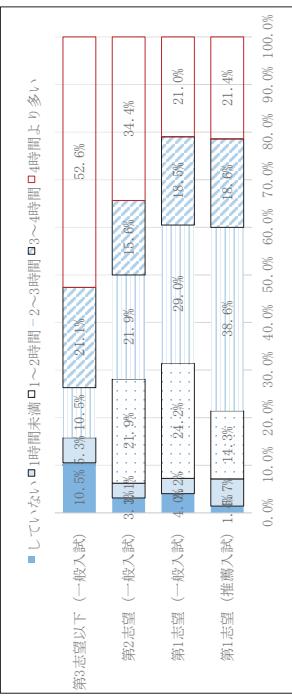


2.高校三年次の勉強時間と志望順位

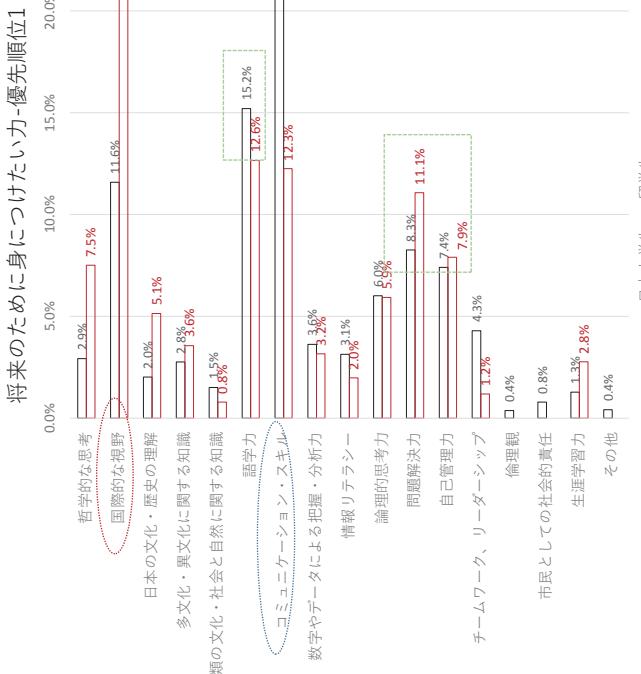
高校3年次の授業以外の1日あたりの学習時間



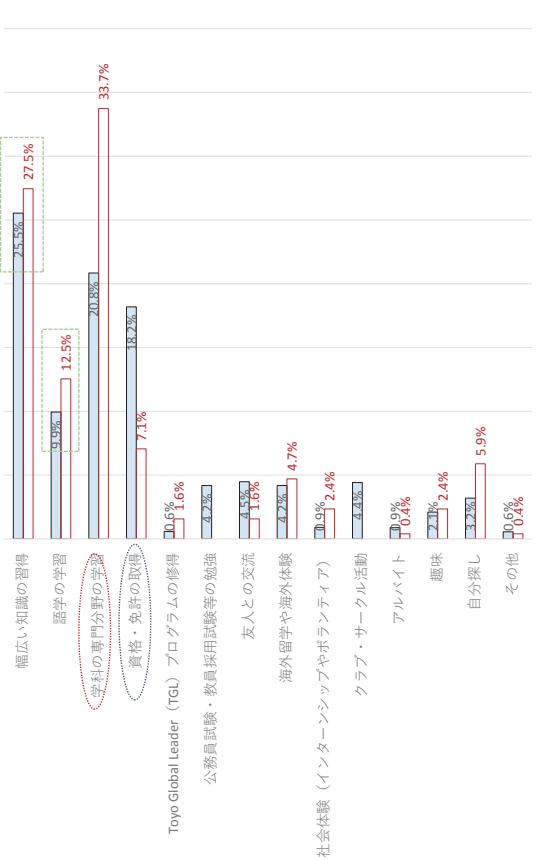
勉強時間 × 志望順位



3.大学教育に対する期待

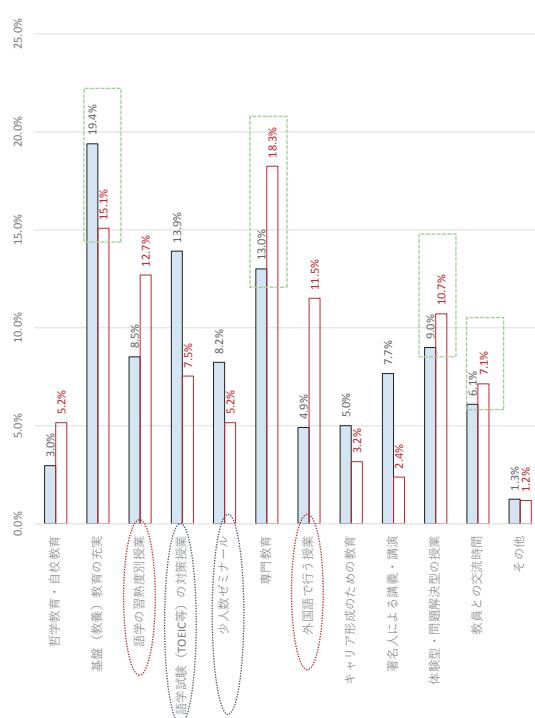


大学生活で特に力を入れて取り組みたいこと -優先順位1

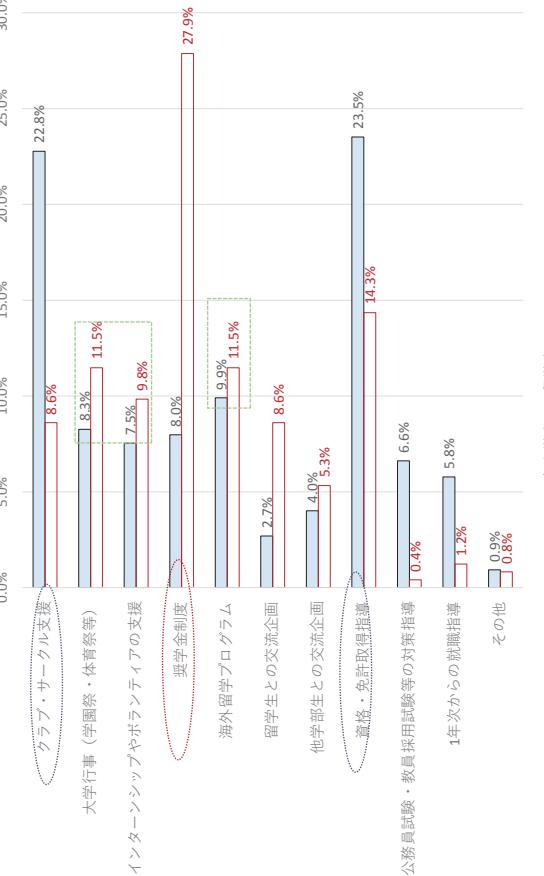


□ 日本人学生 □ 留学生

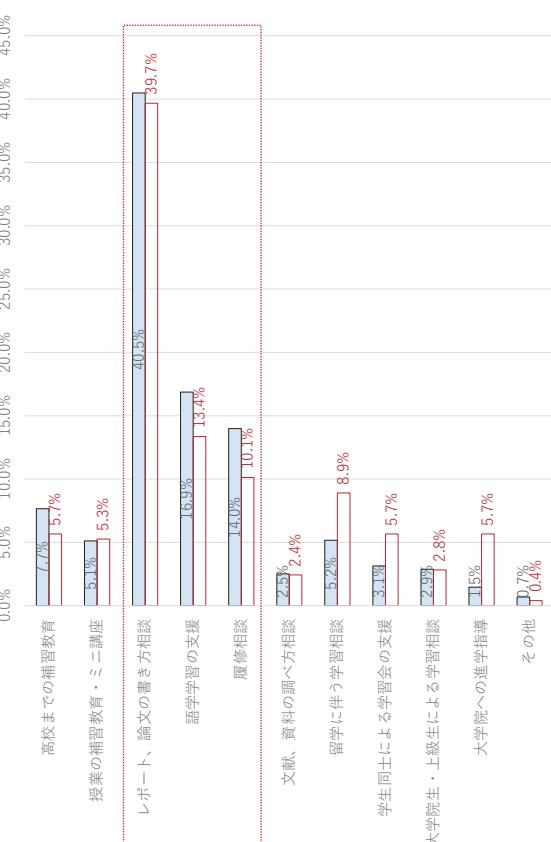
授業について大学に充実してほしいこと - 優先順位1



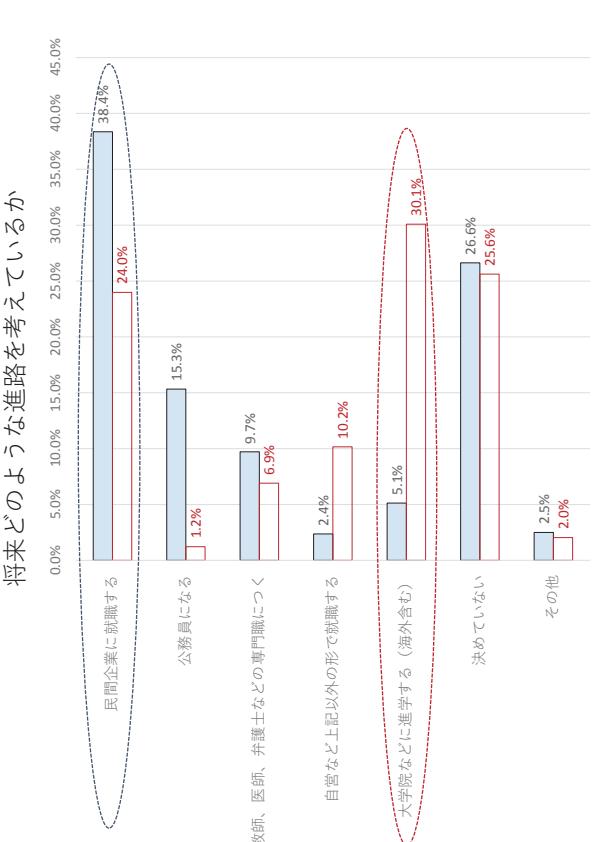
学生生活について大学に充実してほしいこと - 優先順位1



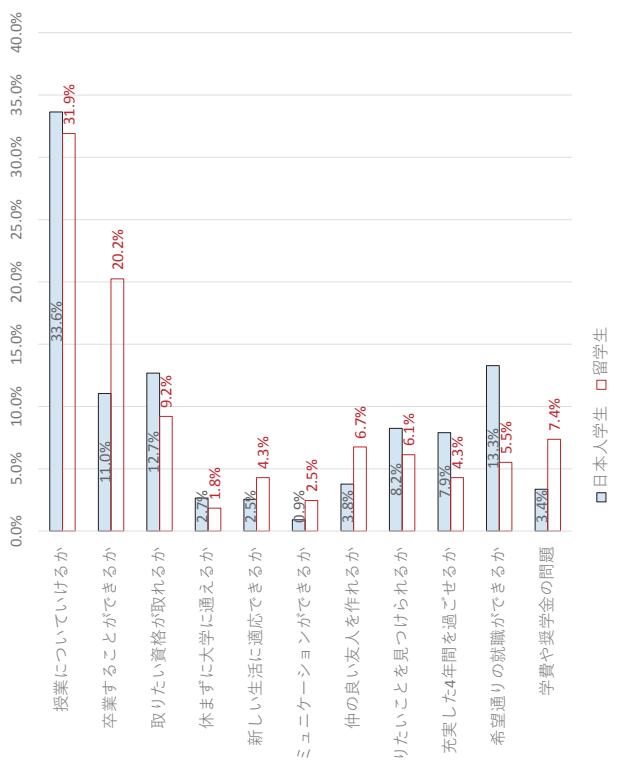
学習支援について大学に充実してほしいこと - 優先順位1



4. 将来の進路と不安



不安なことについて- 優先順位1



□日本人学生 □留学生

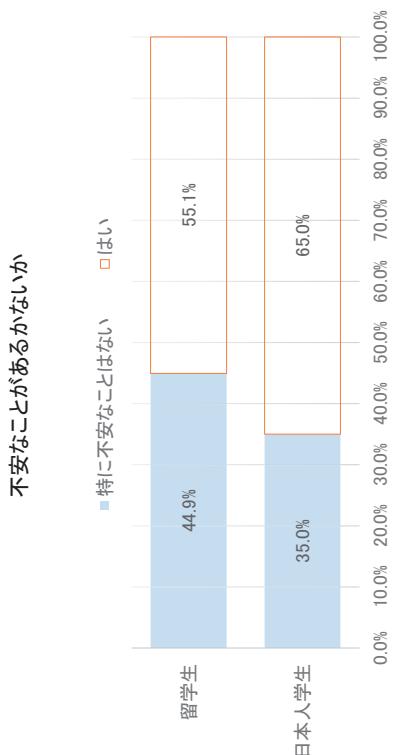
ご清聴をありがとうございました

新入生について日本人学生と比較して、留学生の特徴をあきらかにし、日本人学生との差異及び共通点を示した。高等教育の国際化が進んでいる状況の中、留学生が急速に増え、留学生に対して適切な教育を実施するためには、留学生の現状を把握することが重要である。また留学生と日本学生の交流、教育質の向上にも繋がる。

今後在校生、卒業生調査を用いてさらなる分析が必要

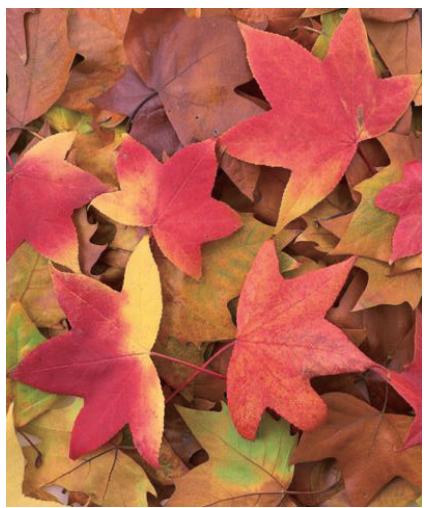


まとめ



大学教育改革の課題

金子 元久



各報告の論点

- ▶ 賀
 - ▶ 生活時間 学修時間
 - ▶ 第4学年で余暇活動が増える
 - ▶ 実用性には満足、論理性養成に不満
- ▶ 魏
 - ▶ 職業興味探索診断 UCAN
 - ▶ どう使う？ 大1と大4とどう違う？
 - ▶ 学習経験
 - ▶ 達成度、学習時間は？
 - ▶ 3分の1の学生が、学科と自分が不適合
 - ▶ 転学科したほうがよい？ 在学中の変化

▶ 2

- ▶ 宋
 - ▶ 卒業生調査 卒業後調査
 - ▶ 進路未定 公務員試験準備 大学院・留学 増えている
 - ▶ 満足度
 - ▶ 就職満足度、微減 大学全体については減少
 - 学生の興味を引き出していない 実践性が不十分
 - ▶ 期待
 - ▶ 批判的思考、研究方法
 - ▶ 鎧
 - ▶ 留学生と日本人学生に共通点
 - ▶ 授業に対する評価？

▶ 3

疑問

- ▶ 賀
 - ▶ 生活時間 学修時間
 - ▶ 第4学年で余暇活動が増える
 - ▶ 実用性には満足、論理性養成に不満
- ▶ 魏
 - ▶ 職業興味探索診断 UCAN
 - ▶ どう使う？ 大1と大4とどう違う？
 - ▶ 学習経験
 - ▶ 達成度、学習時間は？
 - ▶ 3分の1の学生が、学科と自分が不適合
 - ▶ 転学科したほうがよい？ 在学中の変化

▶ 4

議論したい点

- ▶ 何が重要な発見か
 - ◀ 誰が決めるのか IR?
- ▶ 調査から、どう教育改革に結びつけるか
 - ◀ 大学全体、教員
- ▶ 中心となる問題
 - ◀ 主体的な学習に学生をどう導くか
 - ◀ そのための態勢をどう作るか
 - ◀ 必要な条件は何か

